

(2) 第2回新市将来構想策定小委員会について

- 1 現況調査について(概要)・・・・・・・・P 1～
- 2 住民アンケート調査(事前調査)・・・P 9～
- 3 地域アンケート調査(本調査)概要
・・・・・・・・P 14～
- 4 有識者ヒアリングについて・・・・・・・・P 15～
- 5 まちづくりワークショップの開催について
・・・・・・・・P 16～

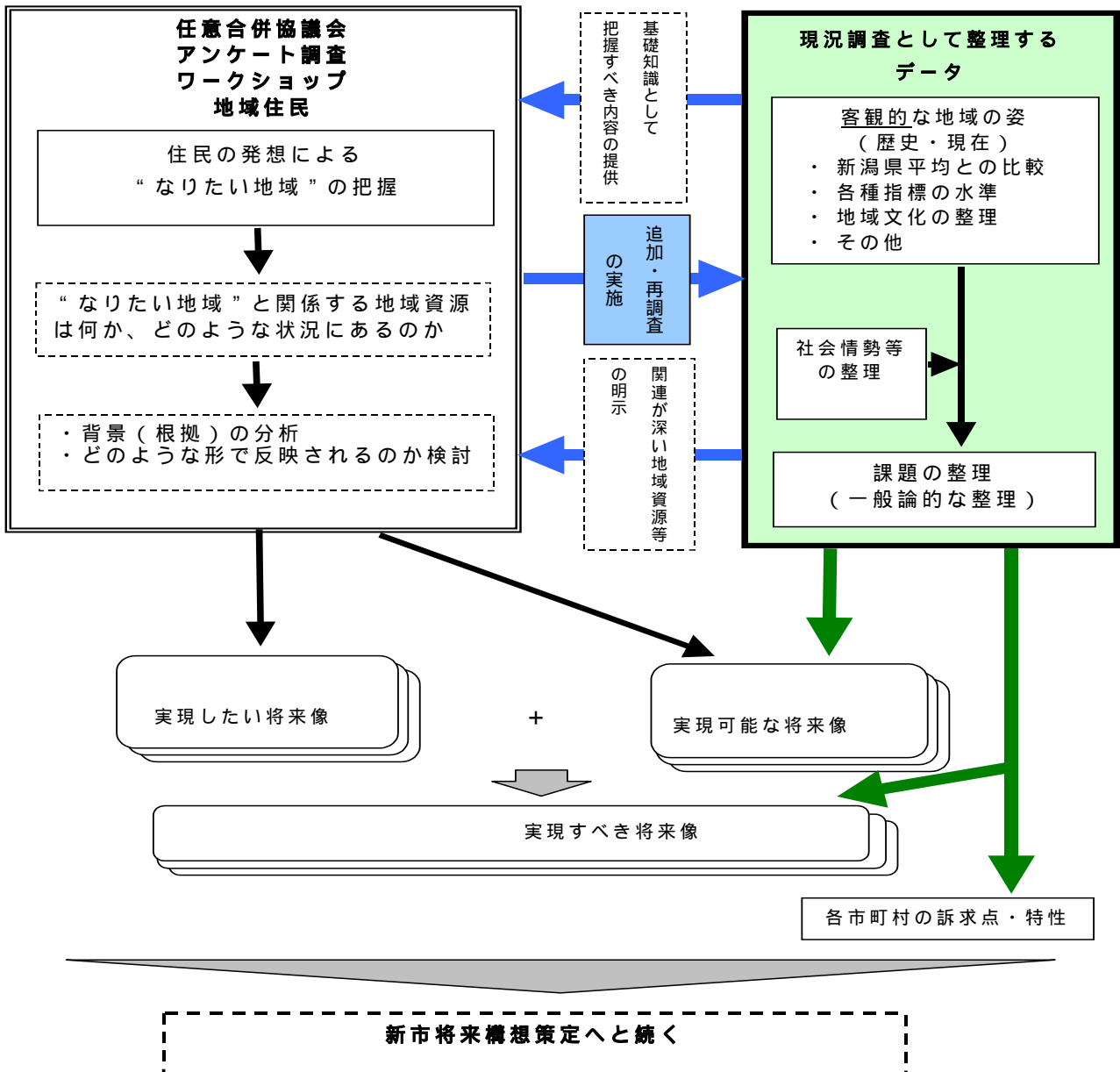
1 現況調査について（概要）

調査の目的と活用のイメージ

（目的）

- 現状認識の共有化
- 各自治体（地区）の特徴、課題を把握
- 合併後（地域）の姿に関する認識の共有化

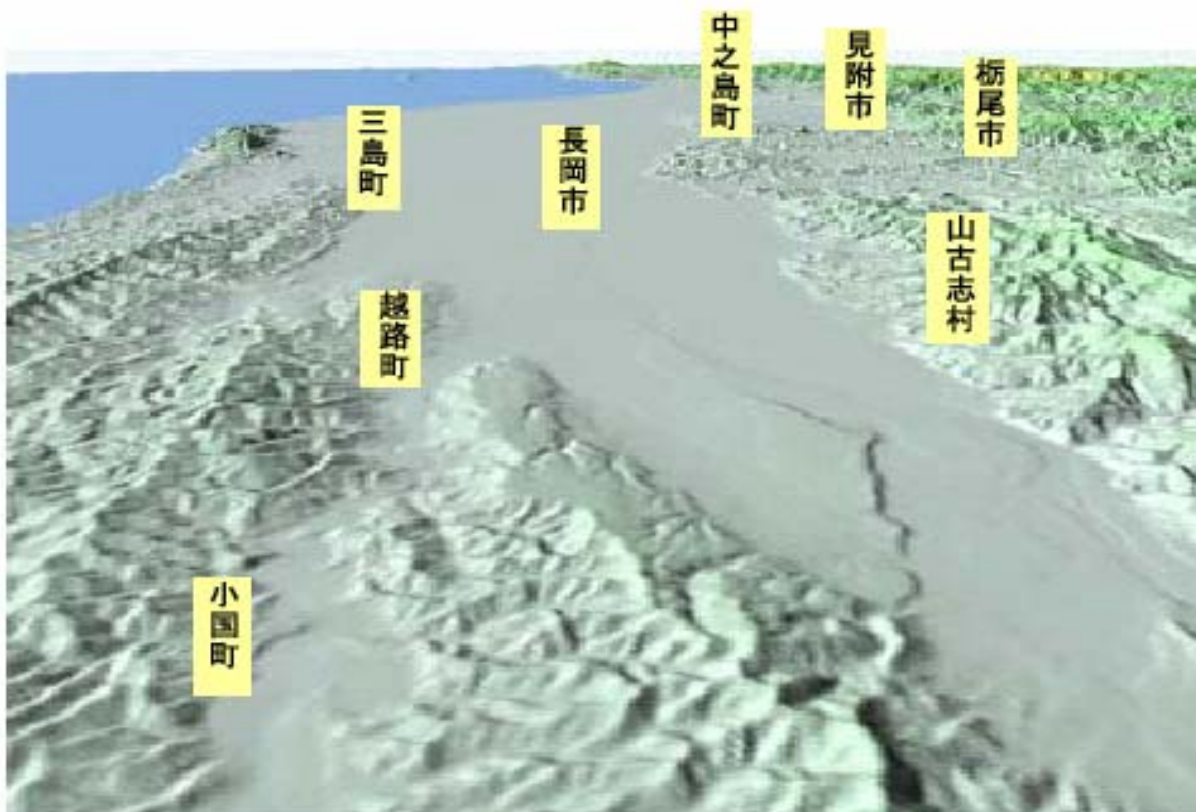
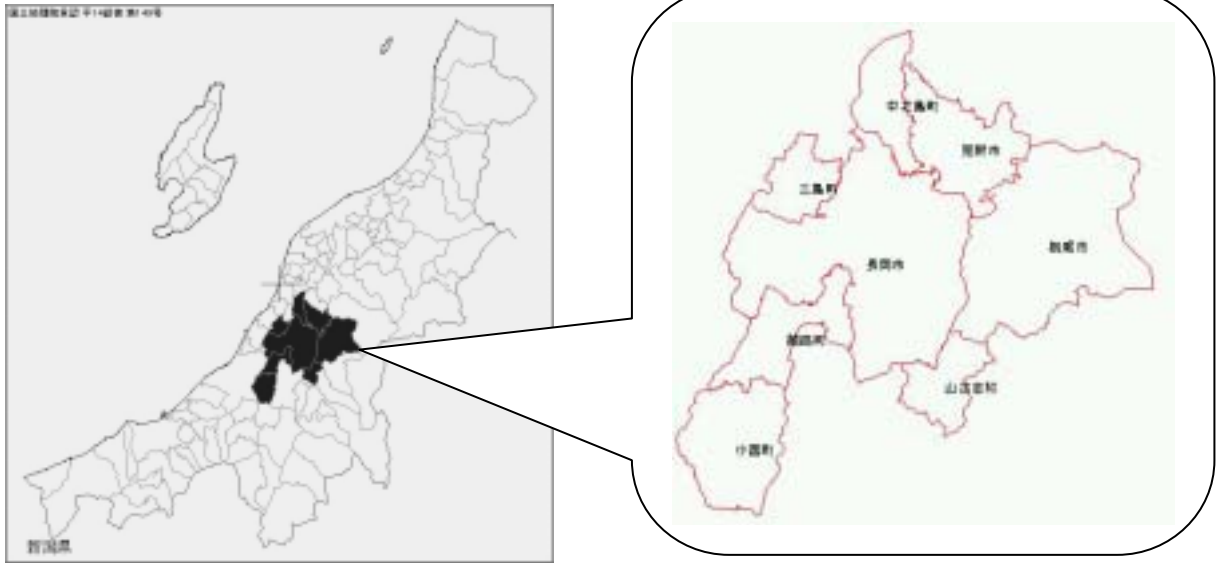
（活用のイメージ）



調査結果抜粋

位置及び範囲

- ・ 長岡地域 8 市町村は、新潟県の中央部に位置しており、信濃川がつくる越後平野の始まりに位置しています。



小国町上空 5000m から長岡市方面を見たイメージ

面積

- ・ 8市町村の総面積は 808.77km² です。
- ・ 8市町村の可住地面積は、平均で 55%程度であり、地域のおよそ半分が豊かな自然となっています。
- ・ 参考までに、現在(H15.4.1 時点)日本で一番大きい都市は静岡市(約 1,374km²)ですが、第6位の仙台市(783.54km²)や7位の夕張市(763.36km²)より大きな市域となります。(なお、現在全国で検討されている合併によって、この順位は大きく変わることが予想されます。)

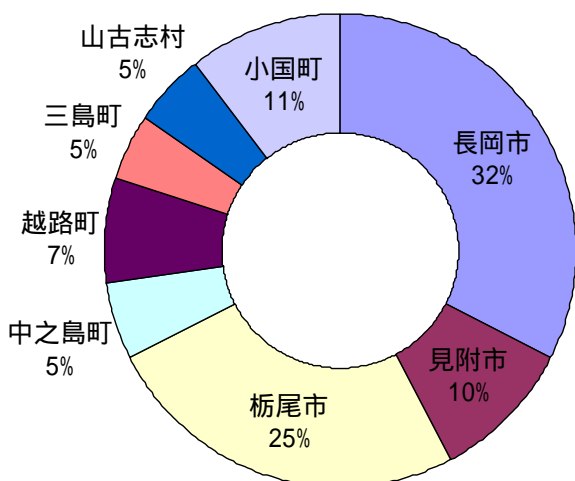
	行政面積 (km ²)	可住地面積 (km ²)	可住地面積 割合
	2001	2000	
長岡市	262.45	174.89	66.64%
見附市	77.96	50.03	64.17%
栃尾市	204.92	61.68	30.10%
中之島町	42.55	42.55	100.00%
越路町	58.44	33.72	57.70%
三島町	36.47	29.41	80.64%
山古志村	39.83	15.63	39.24%
小国町	86.15	29.41	34.14%
8市町村計	808.77	437.32	54.07%
新潟県	12,582.31	4,481.28	35.62%
全国	377,863.66	125,162.33	33.12%

		行政面積 (km ²)
		1999
静岡市	静岡県	1,373.84
いわき市	福島県	1,231.13
札幌市	北海道	1,121.12
芦別市	北海道	865.07
紋別市	北海道	830.36
合併後		808.77
仙台市	宮城県	783.54
夕張市	北海道	763.36
稚内市	北海道	760.80
郡山市	福島県	757.06
旭川市	北海道	747.60

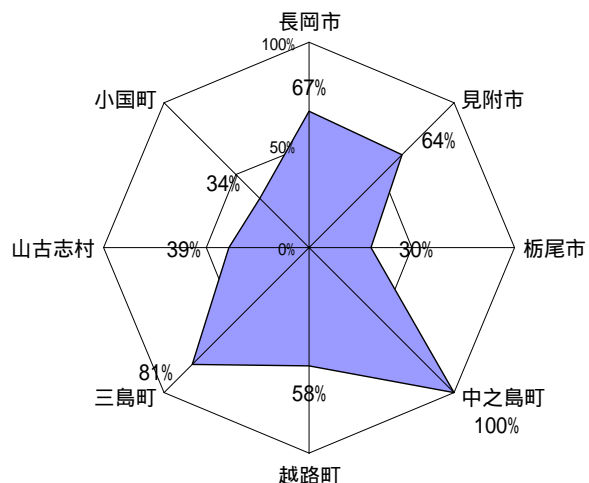
出典:地域経済総覧2002を参考に作成

1. 行政面積は、新潟県統計年鑑1997～2001
2. 可住地面積は、統計でみる市区町村のすがた(2002改訂版)
3. 可住地面積は、行政面積から林野面積と主要湖沼面積を差し引いて算出。

8市町村の行政面積割合



8市町村の可住地面積比較

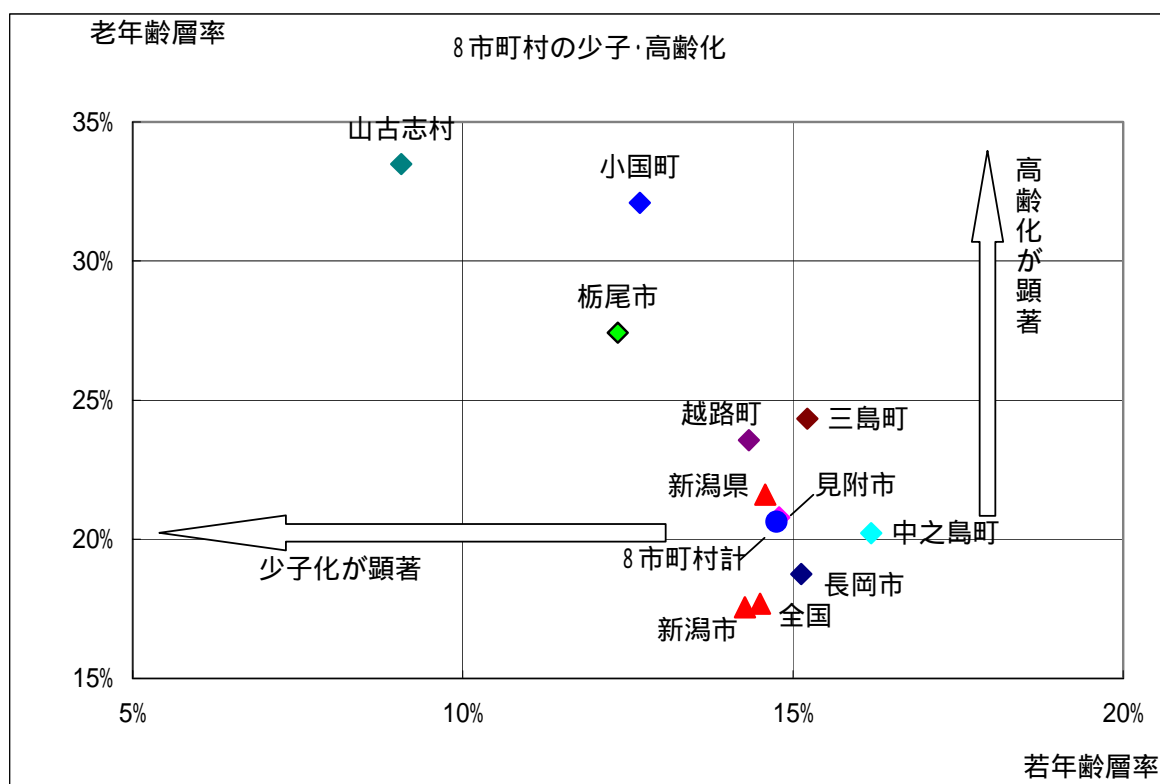


人口増減と少子・高齢化

- ・ 若年齢層率と老年層率では、全国や新潟県の平均と比べて少子化・高齢化の傾向が見られる市町村があります。少子化の進んだ地区ほど高齢化も進んでいることから、この傾向は今後さらに顕著になると考えられます。

若年齢層率：14歳以下の人口の割合

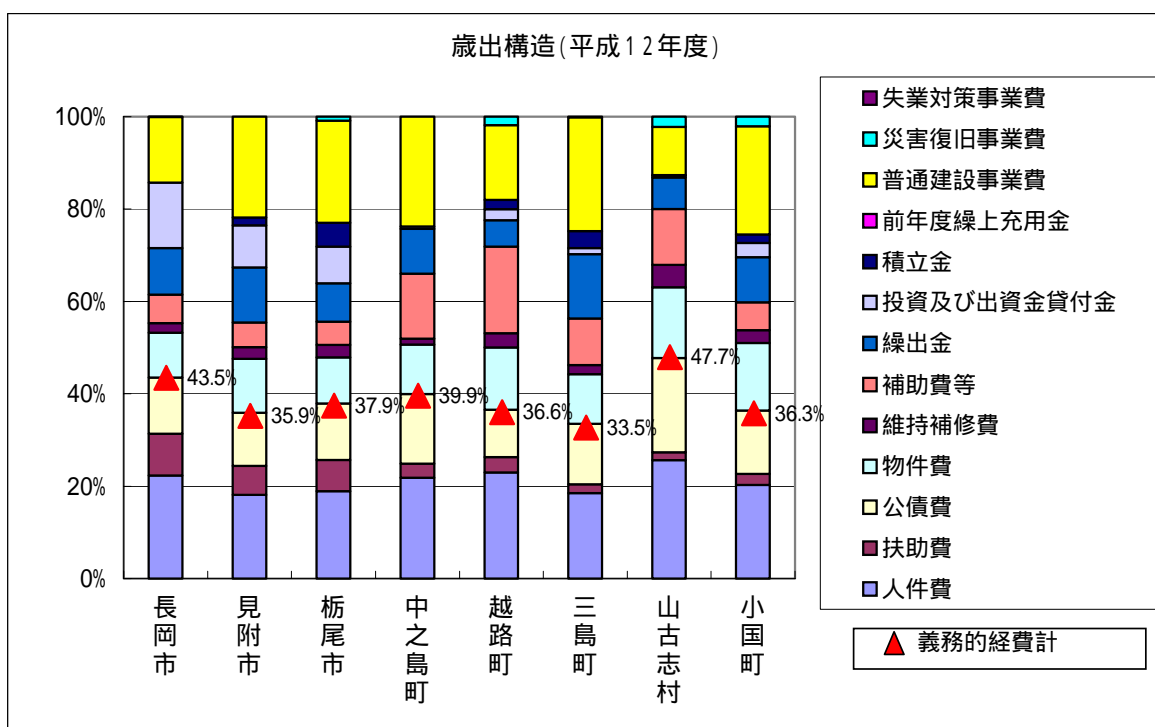
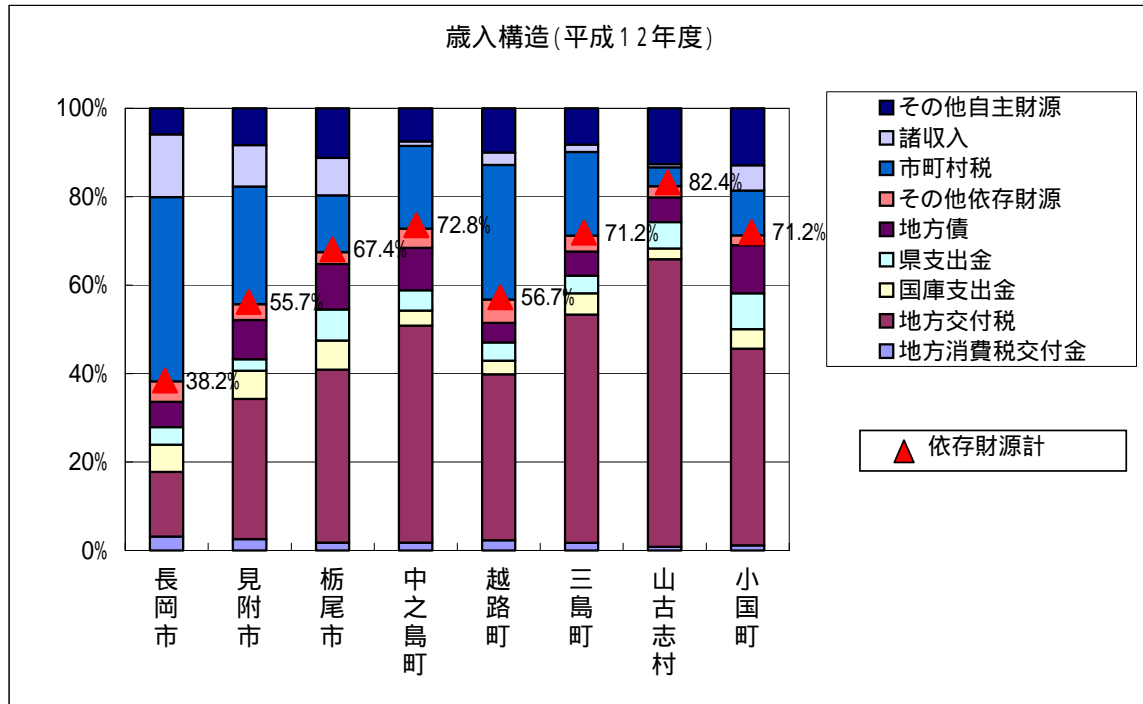
老年層率：65歳以上の人口の割合



(地域経済総覧 2002 の 2000 年「年齢層別人口」を元に作成)

財政の歳入・歳出構造

- ・ 歳入構造では、依存財源（地方交付税、国庫支出金、県支出金など）の割合が高い市町村が多く見受けられます。一般に、地方税などの自主財源の割合が高いほど財政運営を自主的・自律的に行うことができ望ましいものです。
- ・ 歳出構造では、義務的な経費（人件費、扶助費、公債費）の割合が高いと財政の硬直化の懸念があります。



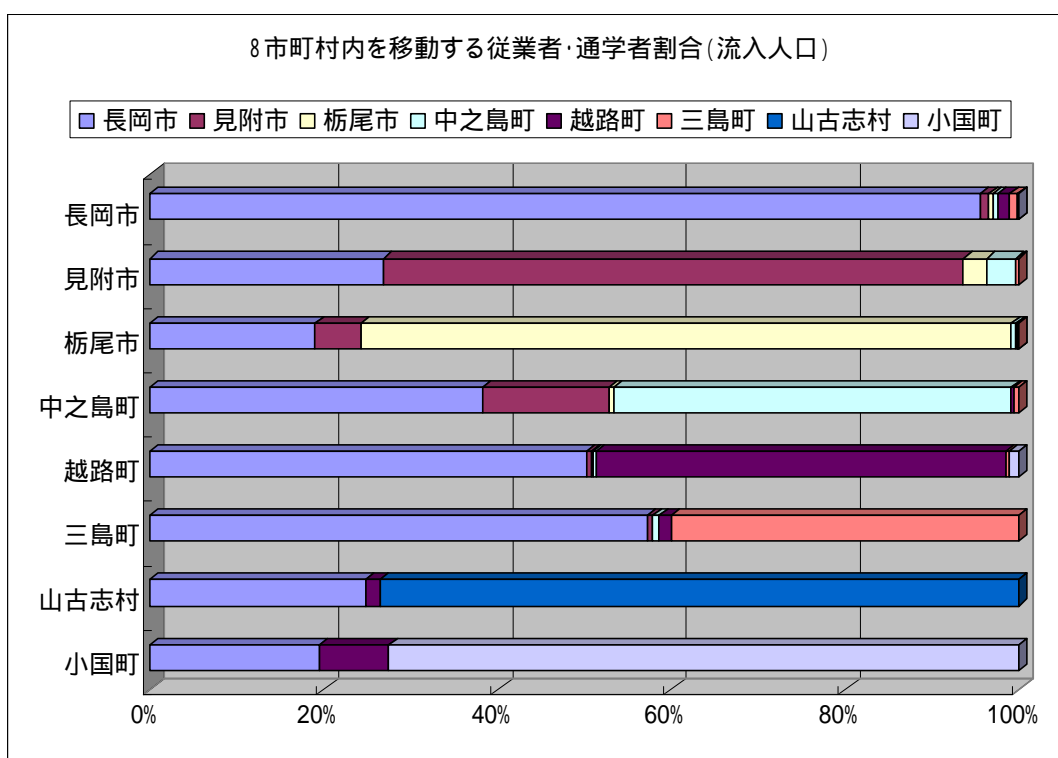
8 市町村間移動

- ・ 通勤・通学の移動では、自市町村以外では、いずれの都市でも長岡市との行き来が最も多くなっています。
- ・ 越路町や三島町では自町内より長岡市への移動のほうが多く、長岡市のベッドタウンとしての性格が読みとれます。

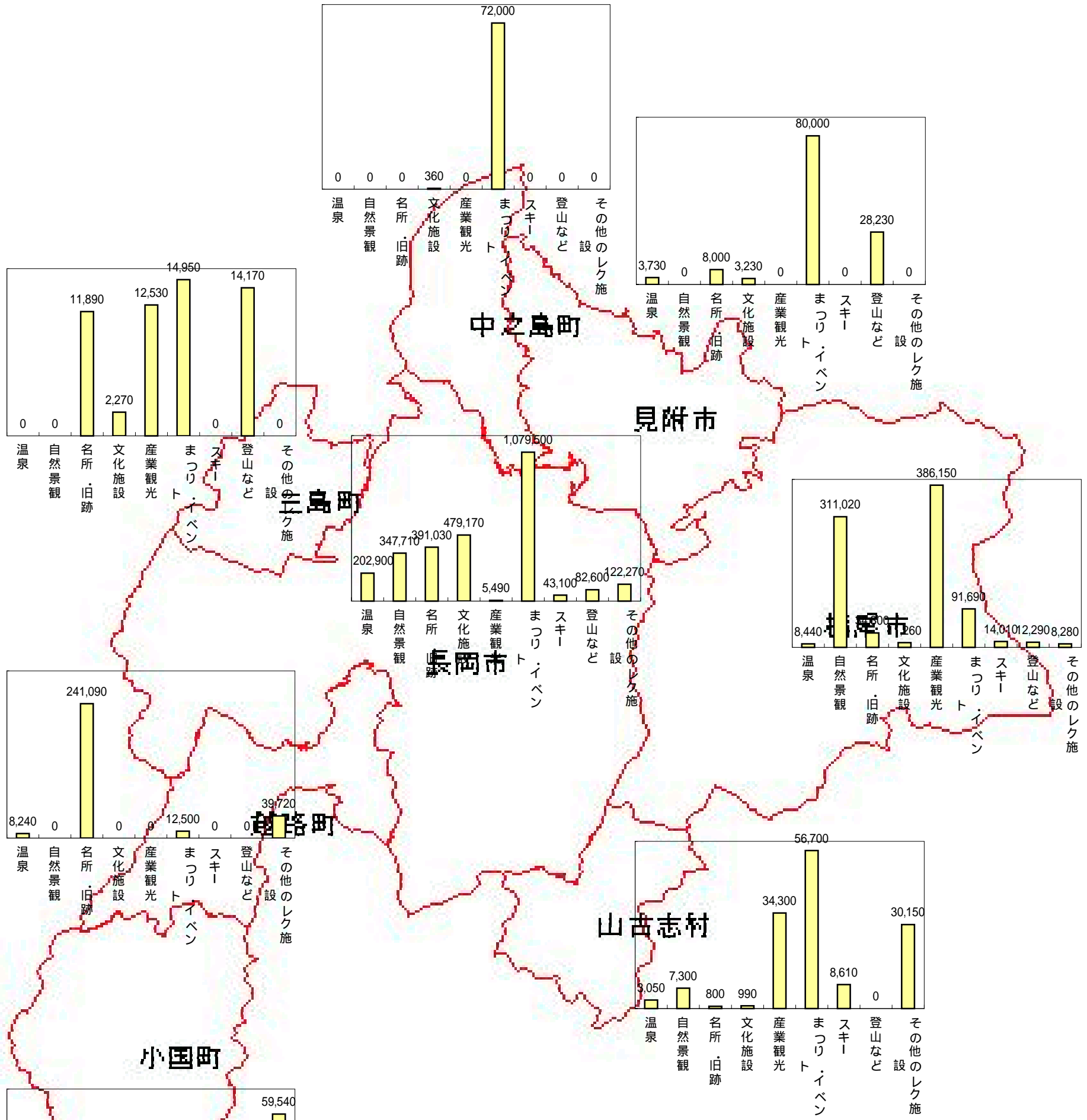
	通勤・通学地								流出入口 小計
	長岡市	見附市	栃尾市	中之島町	越路町	三島町	山古志村	小国町	
長岡市	98,847	1,100	457	532	1,445	932	75	75	4,616
見附市	5,898	14,612	586	714	32	56			7,286
栃尾市	2,596	713	10,206	78	21	15			3,423
中之島町	2,325	881	34	2,780	15	36			3,291
越路町	3,565	43	10	26	3,345	29		77	3,750
三島町	2,033	23		26	50	1,417			2,132
山古志村	273				18		805		291
小国町	677				280			2,515	957
流入人口 小計	17,367	2,760	1,087	1,376	1,861	1,068	75	152	
その他 市区町村	15,546	1,951	217	597	487	428	89	207	
県外	368	16	8	4	1	3	4	2	

出典：平成12年国勢調査

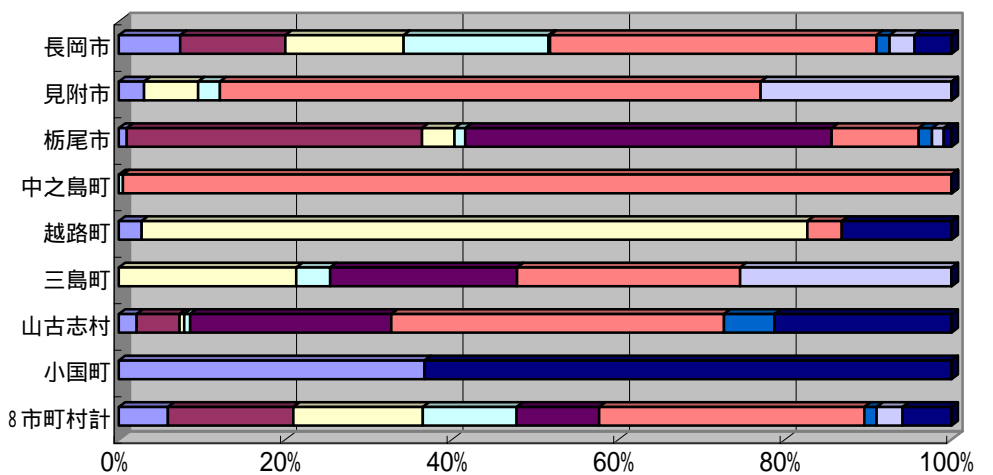
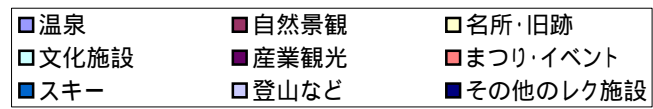
7市町村から見附市への流入人口



8市町村の観光資源別入れ込み数



観光資源別入込数構成比



地域資源

			長岡市	見附市	栃尾市	中之島町	越路町	山古志村	小国町	三島町	長岡地域共通	
大分類	中分類	小分類										
自然資源	自然的資源	景勝、自然景観	信濃川	刈谷田川 守門山、栗ヶ岳、弥彦山の眺望	刈谷田川 名峰守門岳	信濃川、刈谷田川、猿橋川	信濃川、渋海川		八石山、渋海川	西山連峰	信濃川	
	自然現象	気象	融雪による地滑り		融雪による地滑り			雪 融雪による地滑り			梅雨の大雨、融雪の雪崩 (過去の災害)	
生活・余暇・商業施設	景観資源・生活様式		長岡市都市景観条例 水道タンク(国指定文化財) 悠久山の桜祭り 雁木	林道馬場本町線	四方を山に囲まれ緑が多い 雁木 道祖神(県内の1/3が市内にある)	四方を川に囲まれ緑が多い 田園	田園	厳しい地形的条件 棚田やはさ木、棚池	はざ木、田園	田園、丘陵		
	生活・余暇施設	公共施設	国営越後丘陵公園 悠久山公園 千秋が原ふるさとの森	大平森林公園 観音山・水道山公園 新田公園	杜々の森名水公園			四季の里 古志	越後おぐに森林公園(県景勝百選)			
		文化施設等	県立近代美術館 県立歴史博物館	アルカディア				蜜の保全活動(環境保全活動)	民俗資料館			
	教育福祉		高等教育機関の集積(大学3, 高専1)	医療・福祉の里								
	商業・産業施設		東山ふれあい農業公園 市営スキー場			道の駅(おりなす、はーもにー他)			種学原温泉	芸術村		
伝統・歴史	歴史資源	史跡	長岡城、馬高遺跡(縄文)	耳取遺跡	栃倉遺跡(縄文時代の痕跡)		朝日遺跡、松並遺跡他 栢形山城址他多数			千石原遺跡(縄文時代)	縄文文化の遺跡多数	
		歴史	戊辰戦争、 長岡空襲による壊滅的な被害と復興	戊辰戦争跡			上杉 天領 長岡藩 栢崎県 新潟県 (変遷の歴史)		変遷の歴史			
		寺社仏閣		小栗山不動院(獅子舞)		鞍掛神社(県文化財) 薬師如来(県文化財)	宝徳山稲荷大社(日本四大稲荷)					
		記念物(日本初など)			栃尾城跡(県文化財)	大竹邸記念館(新潟県景勝) S23米作り日本一	長谷川邸(越後最古の民家)	白鬚神社の樹林(県文化財) 牛の角突き(本州で唯一伝承)国の 重要無形民俗文化財 手彫り山中隧道(日本一の規模)	小国和紙(県文化財)	国重文親鸞、県記念物の大杉		
	伝統的資源	伝統芸能、民謡			神楽舞	池之島神楽、中野東村神楽			巫女節舞、神楽舞	神楽舞	各地に伝わる神楽など	
		伝統行事、祭り	長岡まつり(大花火)	大風合戦(巨大な六角風) 見附まつり「樽はやし」(県で唯一)	灯ろう流し、石積み(子供の行事、 伝統の継承) とちお祭り 大名行列 ほだれ祭り(越後随一の奇祭)	大風合戦、夏祭り(民謡流し) 灯籠押し合い祭り		牛の角突き				
経済活力	特産物・地場産業		長岡米ブランド化 電子機械工業 県下2位の商業都市	ニット・織物製品	栃尾綿、てまり 杜々の社湧水(名水百選) あぶらげ(ジャンボ揚げ) 米、清酒、繊維、	大口レンコン 稲作、コシヒカリの一大産地 機械・金属工業 物流企業	有機農作物物流協定 酒造、製菓 スポーツメーカー ガス田	錦鯉 観光農園	小国和紙 体験型観光(借農地事業:八石米) ぎんなん、八石なす	金属製品(鋳)、酒、みそ、そうめん	米どころ 米菓や酒造の立地 繊維や機械工業	
	集積魅力		チャレンジショップ運営事業 自由広場ながおかホコ天	見附六斎市、今町八歳市	土地区画整理事業、若者向け賃貸住宅 事業(定住政策)	IC付近に流通基地、住宅団地				土地区画整理による宅地造成で人口増加		
	労働力		長岡オフィスアルカディア	県営中部産業団地								
	イベント			Tシャツデザインコンテスト	あぶらげまつり・遊雪まつり	ジャンボおにぎり(ギネス)			牛の角突き		三島まつり(花火大会、全日本丸太 早切選手権) 西山連峰登山マラソン大会	
地域特性	イメージ資源		繊維のまち 若者が定着できる産業都市	山紫水明の地、湧水 「伝説と民謡の里」 「石仏と道祖神の宝庫」 「機と綿のまち」 住みたくなるまち、住きたくなるまち	田園都市	蜜舞う里(保護運動) 越の国に通じる路という由来、 田園都市	一群一村、古志郡の山間	標高300~500mの山脈に囲まれた盆地 でまさに小国	長岡のペットタウン			
	人的資源	市民、人情	時代を担う人材育成への思い:米百俵の精神(小林虎三郎) 反骨精神(河井継之助:司馬遼太郎 「峠」) 大正時代に市民がお金を出し合っ てつくった悠久山公園	矢沢幸(詩)	大竹貫一(記念館) 入澤記念庭園 与茂七地蔵「今はよしあらね濡れる 身に負えど清き心は知る人ぞ知る」		坂牧善辰(漱石の「野分」のモデル)					
	著名人		山本五十六	コシノジュンコ(まちづくりアドバイザー)	上杉謙信	三波春夫						
立地条件	立地条件		県内第2の都市、城下町、中越地区 の中心	県のへそ(ど真ん中)	県のほぼ中央	県のほぼ中央 川に囲まれた	越後平野の南西端	県の中央	県の中部	県の中央	県の中央	
	交通条件		交通の要衝	信越本線		高速道路のIC						
その他	行政指針	総合計画キャッチフレーズ	「個性豊かな国際文化都市」	「トータルファッションシティの創造」	「自然と人が共生する、うるおいのあるまち」	「うるおいと活力にあふれる田園都市(ふるさと)」	「人と自然にやさしい田園都市 こしじ」	「夢を集めて力に変えて新世紀(あした)に伸びる文化村・山古志!」	「人は元気 自然が薫る 小国町」	「人の和で 未来につなぐまちづくり ~人が人を育て人がまちを創る~」		
		市町村勢要覧サブタイトル	新ながおか主義 新世紀を築く「自立」と「個性」	このまちで私らしく暮らす	湧水・楽園	ひとが主役です	雪ほたる舞う里	ぬくもりのかたち	心があたたかくなるまち小国からの手紙	未来へ。人が人を育て、人がまちを創る		
		市民活動	長岡市民センター NPO法人「地域循環ネットワーク」 他	里山の森づくり、団塊くじら、めだかの学校 他	よったかりうえーぶ(よったかり:寄り集まるの方言) 他							

(分類は「出田肇:地域イメージの構造分析-東京都墨田区におけるケーススタディ」筑波大学受託研究員研究報告書(1992)を参考に構築)

資源抽出の参考資料

合併研究会報告書の8市町村の概要
8市町村のホームページ

平成14年度版長岡市市勢要覧 他 2000年見附市勢要覧 他

2001栃尾市勢要覧 他

2003中之島町勢要覧

2000年越路町勢要覧

山古志村勢要覧

2001年小国町勢要覧

2001三島町勢要覧 他

長岡地域振興計画(新潟県地域振興調整会議)

2 住民アンケート調査(事前調査)

実施概要

(1) 調査目的

新市将来構想にあたって、地域の総意ではないが、一般住民の各属性(性別、年齢、地域)の志向を把握することにより、本調査(地域アンケート調査)の際の問題点提起(自由記述を分析した本調査票設計への反映)とワークショップでの議題(客観データ)を提供することを目的として実施する。

(2) 調査方法(訪問留置調査)

調査員が直接対象者のお宅を訪問し、調査趣旨、内容の説明をする。調査票は後日回収する旨を伝え調査票を留置き対象者に記入してもらう。回収時、その場で調査票の点検をし、不備を訂正、調査票を回収する。

(3) 対象者およびサンプル数と抽出方法

対象市町村居住の住民を対象とする。

調査カテゴリーは、男女別、年齢別(20代、30・40代、50代以上)、市町村別とする。抽出は、エリアサンプリング法とし各カテゴリーを5人とする。

調査対象者数は、2(男女別) × 3(年齢別) × 8(市町村) × 5人=240人とした。

抽出方法はエリアサンプリング法とし、次のように抽出した。

各市町村5地区(1サンプル×6属性)で偏りがないように設定。

乱数を発生させ、選ばれた町字を抽出。

(*地域数については、調査期間内で終われる地域数として5地区に区分した。)

(4) 実施時期

平成15年3月下旬

(5) 調査内容及び調査結果(要旨)

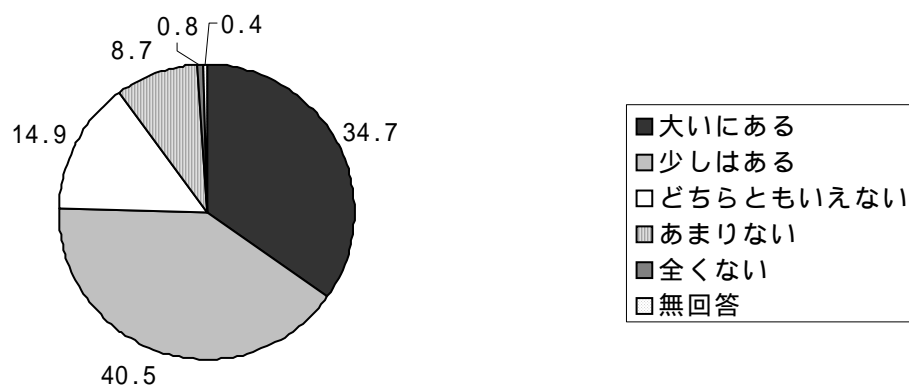
属性別の市町村合併に関連する考え方、問題点、要望事項、改善点、行政に対する意見などの収集。

地域への愛着・満足度・期待

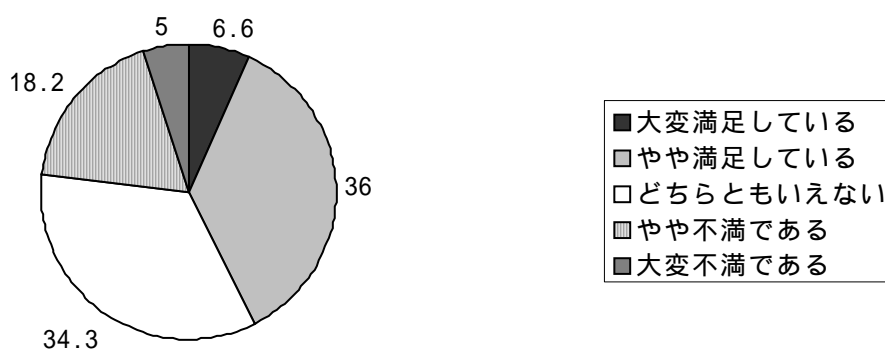
結果要旨

- 「地域に対する愛着は高く、現在の行政サービスに対する満足も一定あり、今後への期待もそれなりにある」という、今後の新たな地域行政展開に向けて、好ましい結果が出たといえる
- 世代による回答傾向差は高くなく、若い世代の愛着・期待も十分にある

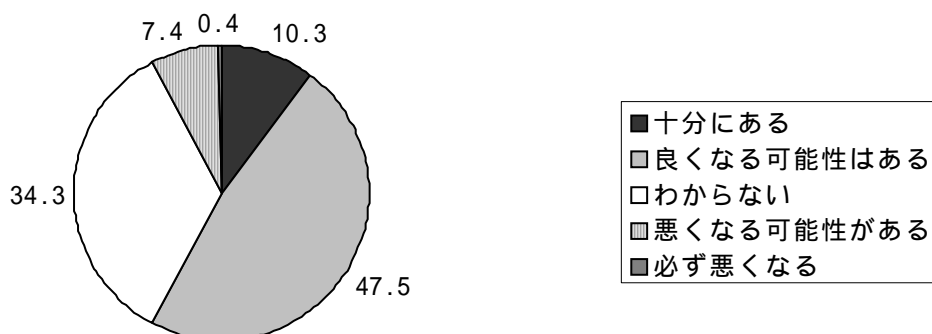
1-1 お住まいの地域または市町村に、愛着や誇りはありますか(%)



1-2 市町村のあり方や行政サービスに満足していますか(%)



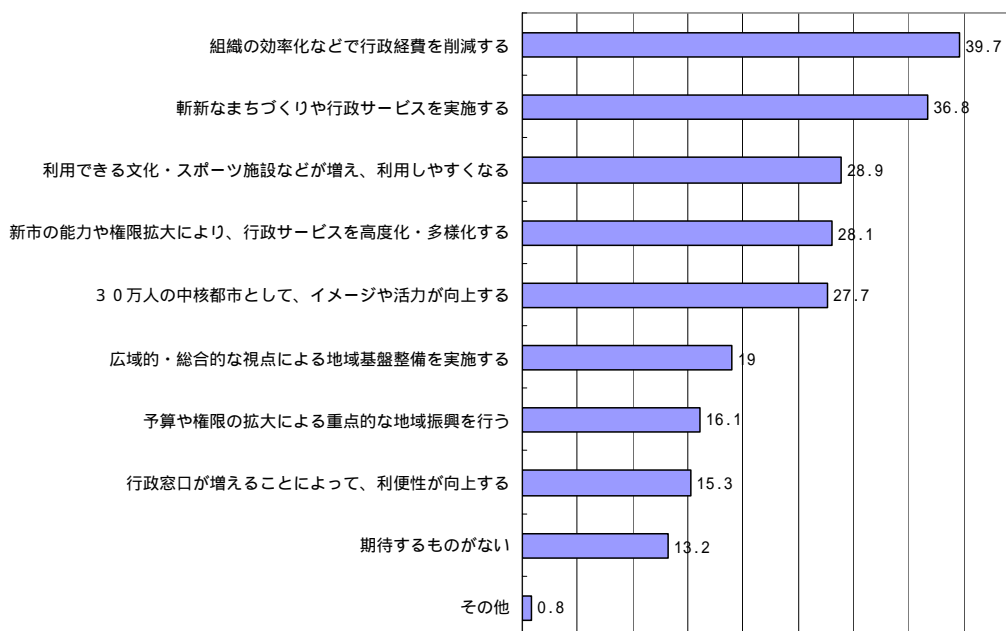
1-3 もっと良くなる可能性は(%)



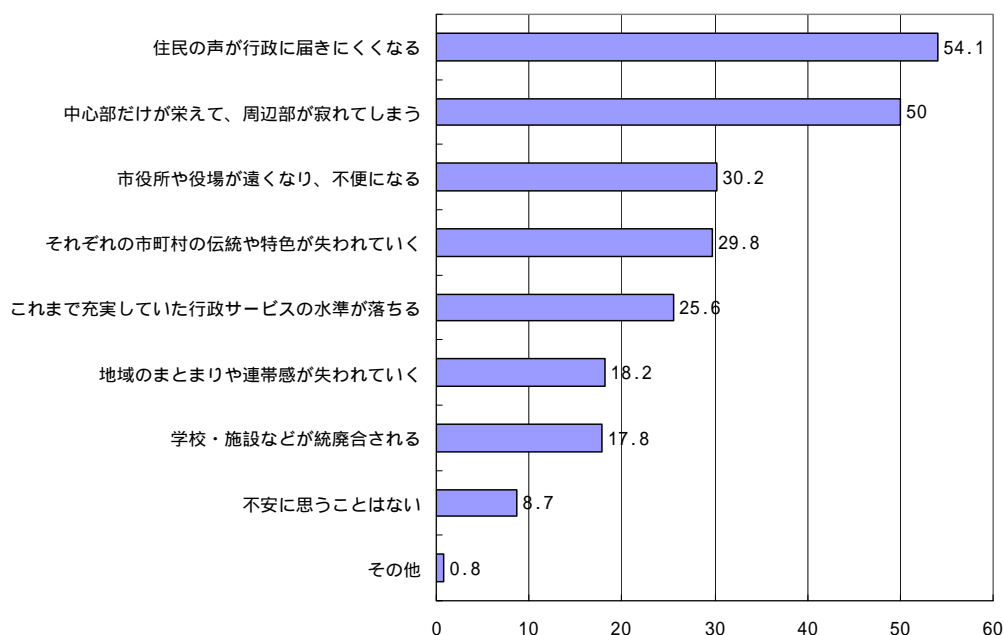
結果要旨

- 期待するものは「組織の効率化などで行政経費を削減する」「斬新なまちづくりや行政サービスを実施する」ことであり、旧来の市町村のやり方にこだわらない改革や新鮮な活動を求めている
- 不安は「住民の声が行政に届きにくくなる」「中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまう」こと。将来構想策定に関しては、この不安を払拭するためにも、行政への住民の声の反映や参加の保障、および市中心部だけでなく周辺部にも配慮したきめ細かな考察が必要となる
- 「住民の声が行政に届きにくくなる」不安は、長岡市以外での回答が高く、「中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまう」不安は、長岡市と三島町以外での回答が高い

2-1 合併に際し、期待すること(%)

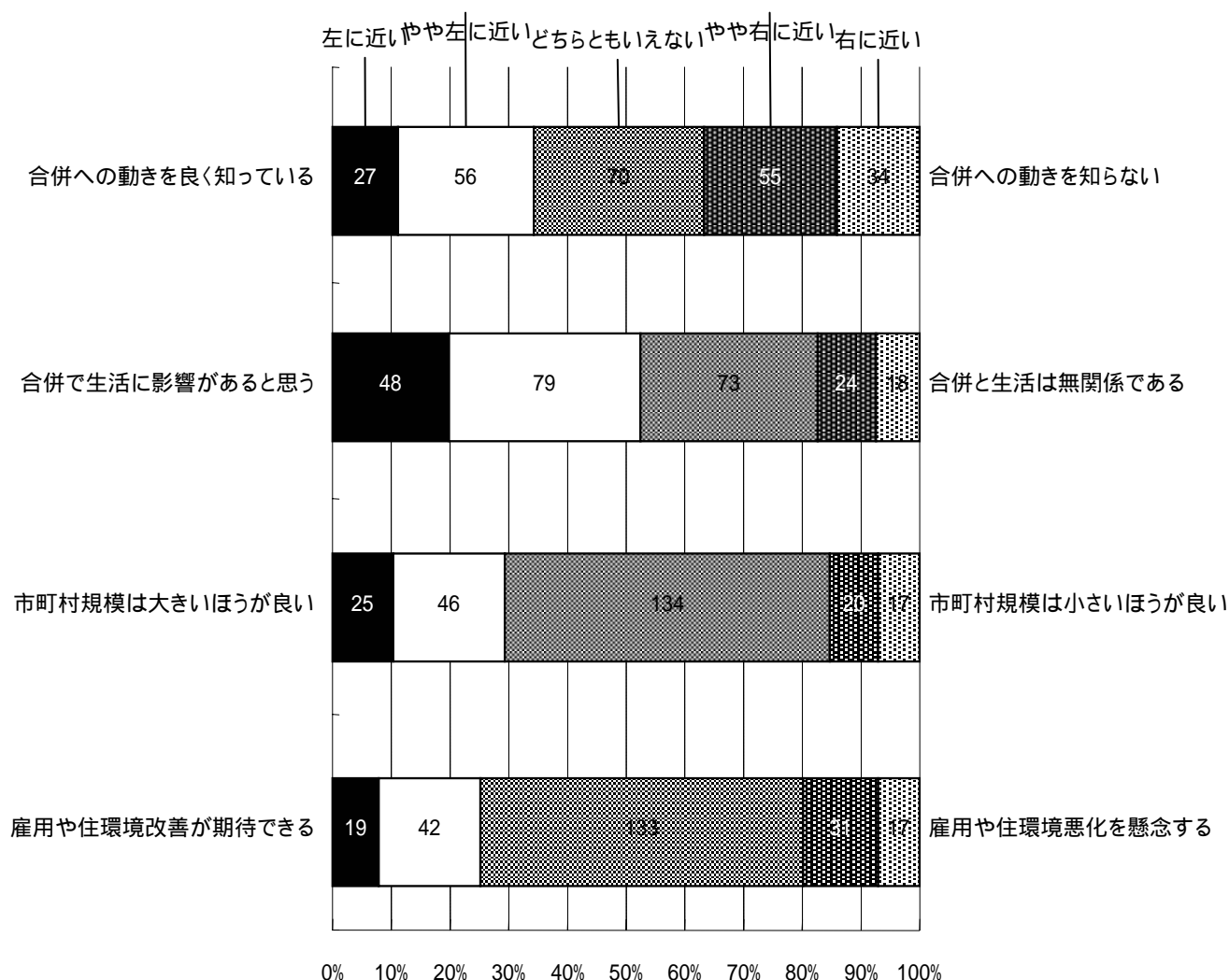


2-2 合併に際し、不安に思うこと(%)



結果の要旨

- 左右項目対比による「合併に対する認識」設問についての回答は分散し、いずれの回答も特に偏りのあるものとはならなかった
- 加重集計結果は、設問順に、「3.05」「2.52」「2.83」「2.94」（数値が大きいほど右の項目に近い）であり、ほぼ中間値となっている
- 市町村規模および雇用・住環境変化に関する設問には、半数以上が「どちらともいえない」の回答であり、立場のはっきりした住民はそれほど多くないことが伺える
 - （特に合併認識別のクロス集計分析は必要ないとも考えられる）
- 若い世代、女性ほど合併への動きに対する認識が低い
 - 今後の広報・啓発施策の重点ポイント

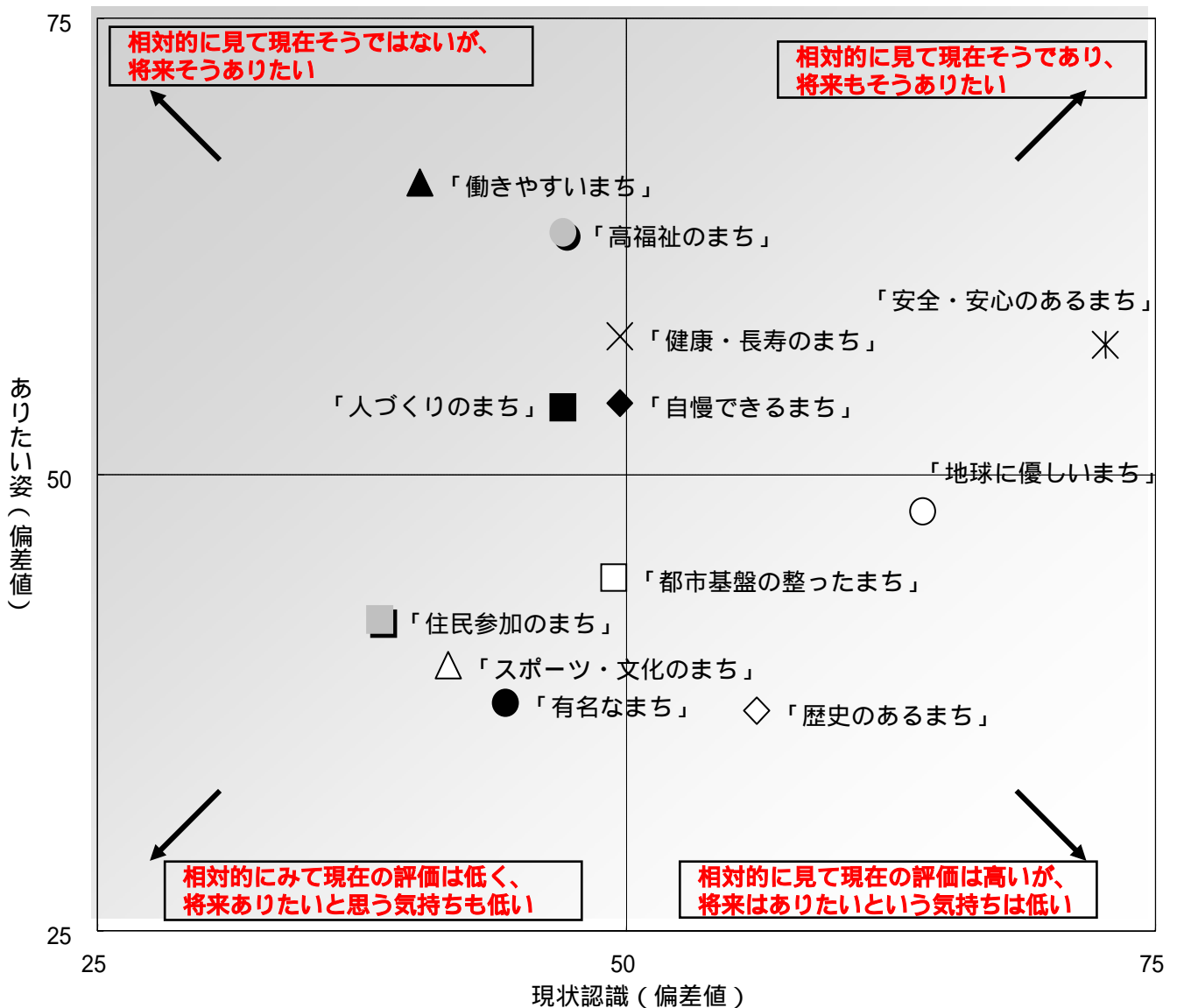


マトリクス分析の方法

- 地域の現状認識とありたい姿の回答率を、それぞれ偏差値処理(50が中間値となる)
- 現状認識を横軸、ありたい姿を縦軸として、2次元マトリクスとして示す(下の図表)

結果の要旨

- 2次元マトリクス上の位置から、以下のことがわかる
 - 現在そうであり、将来もそうありたい姿 = 「安全・安心のあるまち」
 - 現在はそうではないが、今後そうなりたい姿 = 「働きやすいまち」「高福祉のまち」「健康・長寿のまち」「人づくりのまち」「自慢できるまち」
- それぞれの「ありたい姿の偏差値」と「現状認識偏差値」を対比させると、大きなギャップのあるのは「働きやすいまち」「高福祉のまち」であり、その実現は今後に向けて大きな課題となる



3 地域アンケート調査（本調査）概要

(1) 調査目的

- “地域の総意”としての一般住民の意向を把握する。
- 将来構想素案作成時の裏付けデータとしての活用を図る。
- 合併協議の進捗をアナウンスする広報手段としての効果を考慮する。

(2) 調査方法(郵送調査)

調査対象者を構成市町村が住民基本台帳より無作為抽出法及び系統抽出法により抽出し、調査票を直接対象者に郵送、対象者が記入済み調査票を返送する。

(3) 対象者およびサンプル数

対象市町村居住の住民を対象とし、母集団は約 30 万人(合併後人口規模)、有効回答数 3500 サンプル、発送数 7000(回収率 50%想定)と設定する。実際の配布については、合併前各市町村人口構成比を基本とした2段階抽出法による。

各市町村サンプル配布数

市町村	人口(人)	人口構成比(%)	配布数(枚)
長岡市	193,414	63.2	4,425
見附市	43,526	14.2	996
栃尾市	24,704	8.1	565
中之島町	12,804	4.2	293
越路町	14,271	4.7	327
三島町	7,618	2.5	174
山古志村	2,222	0.7	51
小国町	7,389	2.4	169
合計	305,948	100	7,000

(4) 実施時期スケジュール(案)

	4月																															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
調査票作成	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																		
印刷																																
抽出・ラベル作成																																
封入・ラベル貼り																																
発送																																
督促状発送																																
記入期間																																
回収																																

4 有識者ヒアリングについて

(1) 調査目的

有識者ヒアリング(取材調査)は、“地域を全体視して考えていく有識者から導かれる地域のなりたい姿”を引き出すものとする。

(2) 活用方法

- ・ 地域のなりたい姿の源泉として将来都市像構築の材料とする。
- ・ まちづくり市民会議(ワークショップ)の討議資料とする。

(3) 調査方法

選定した有識者に対して、インタビュー調査を実施する。

(4) 対象選定の考え方・人数

- ・ 対象となる有識者は地域振興活動等に携わっているオピニオンリーダー等
- ・ 人数は、10名程度とする。(各市町村最低1名はヒアリングする。)

(5) 調査スケジュール

4月30日までにヒアリングを完了予定とする。

5 まちづくりワークショップの開催について

(1) スケジュール

【第1回】 ・日時 平成15年4月17日(木) 19:00～

・場所 長岡市役所

【第2回】 ・日時 平成15年5月上旬予定

【第3回】 ・日時 平成15年5月中旬予定

【予備開催】・日時 平成15年5月下旬予定

(2) ワークショップ参加予定者について

市町村名	推薦者数	公募者数	合計
長岡市	4人	9人	13人
見附市	4人	2人	6人
栃尾市	4人	3人	7人
中之島町	4人	1人	5人
越路町	4人	1人	5人
三島町	4人	1人	5人
山古志村	4人	0人	4人
小国町	4人	1人	5人
合計	32人	18人	50人

平成15年4月1日現在

(3) ワークショップの公開等について

【ワークショップの傍聴について】

将来構想策定に向けての一般の住民による意見交換・検討(作業)を行う場として位置づけられるため、一般の傍聴は原則として行わない。

ただし、各市町村の広報等への対応として、各市町村担当者1名の入室は可能とする。

【取材について】

マスコミ等による取材については、ワークショップでの協議・作業の支障にならないことを前提とし、時間を限定しての撮影を原則とする(ワークショップ開催時の全体写真等)。

また、参加者へのインタビューについては、ワークショップ終了後、メンバーの了承を得た上で対応する。